

令和4年 2月

文化体験はいつも小さなことから生まれる。先月、小学校で自分の幼少時代について発表する機会がありました。その準備の中で、私は海外の文化を伝えることが仕事であるにもかかわらず、子供の頃の生活については、香港も日本も大きな違いはないことに気づかされました。印象的だったのは、私がよく遊んだベイブレードなどのおもちゃの話をする、同じものを持っていると言う生徒がいたことです。2000年代前半のことですから、日本は文化的にまだまだ香港に大きな影響を及ぼしてた時期です。

もうひとつ印象的だったのは、交流会の後の給食です。日本には何度も旅行に行っていますが、学校給食は一般公開されていないので、本場の給食を食べることはできません。そして、味に妥協することなく、生徒が必要とする栄養に合うように工夫された給食であることに感動しました。香港では、学校給食があまりにまづいので、ほとんどの生徒が外で昼食をとっています。だから、生徒たちが実際に給食を楽しんでいる（しかも美味しい！）のを見ると、ビックリしました。

もちろん、朝倉では新鮮な食材が手に入り、人々が食の品質に気を配っているからこそ、それが可能になったのです。これは朝倉が誇るべき強さのひとつです。SNSで朝倉を紹介する仕事をしていると、食に関するコンテンツは常に上位にランキングしています。人々の生活を支えるために、質の高い食品を提供する生産者の方々には、本当に頭が下がります。中国のことわざに、「民は食をもって天となす」というのがあります。良い食べ物なくして、良い生活はありえない。その意味で、朝倉はすでにユートピアとしての本質的な条件を満たしているのです。

